

海の人材育成に関する国際シンポジウム

2016年7月19日～20日 | 日本・東京

セッション1：海洋生物資源管理

Photo credit: Nick Hall

ギョクオヴァ湾コミュニティ保全プロジェクト

トルコ、ムーラ、アクヤカ

1) 当プロジェクトの主眼点

ギョクオヴァ湾コミュニティ保全プロジェクトの目的は、地元の漁業者コミュニティを海洋生物多様性保全の最前線と位置付けることである。その核として採用されている方式は、広範囲にわたる利害関係者を監視、評価、制度設計に参加させることを目指す参画型の海洋資源管理モデルである。このモデルでは、地元漁業者が確実にプロジェクトに対して高いレベルの当事者意識を持ち、新たな管理プロセスの推進役となる。

2) 参加組織およびその他のパートナー

主導的な組織は地中海保全学会（MCS: Mediterranean Conservation Society）である。この組織は、海洋資源と生物多様性の持続可能性を危惧する地元の漁業者、学者、著名な経営者・実業家を含むグループにより、2012年に創設された。このグループを支える主たる動機づけは、共同管理の関係者をすべて含み、地元コミュニティが構想の主導権を確実に握るような海洋保護区（MPA）管理のベストプラクティス事例を生み出すことである。

MCSには約150名の会員がおり、そのうち10名はそれぞれフルタイムまたはパートタイムで別のプロジェクトに取り組んでいる。また、MCSの活動を支援するボランティアも20名いる。地元の男性漁業者および女性漁業者のコミュニティは、MCSの重要なパートナーである。

3) 能力開発において効果が証明された活動やツール

指定された禁漁区の施行と監視を担う能力を地元コミュニティに身に付けさせるため、MCSは理論的な知識と実践的な研修を組み合わせた海洋警備の研修モジュールを提供している。研修

では保護区域のパトロールから船舶の安全まで、また、海洋生物多様性の評価から市民向けの意識向上戦略まで、幅広い話題を取り上げる。地元の漁業協同組合がこのプログラムの受講者を選ぶが、その際は、漁場そのものと対策が必要な違法行為の両方に精通した経験豊富な漁業者を選ぶ。MCS は、各コミュニティの海洋警備部門に禁漁区の効果的な施行と監視を担う能力を確実にかつ十分に身に付けさせる上で必要なツールとリソースを提供する。

また、地元の漁業者には、違法な漁業活動を監視し、政府当局に報告する権限も与えられており、そうすることで、地元の知識と執行当局の間の溝を埋めている。現在は、地元のコミュニティと国の当局が初めて全面的に協力して取り組みを進め、地元の漁業の持続可能な管理の調整と改善をさらに進める方法について、革新的なアイデアを積極的に共有している。

このプロジェクトでは、管理職級を含む政府当局者に対して、監視強化のプラスの成果について定期的に状況説明が行われており、詳しい漁獲量の記録を用いて魚類生物量の増加や地元の漁業協同組合の収入増加などの成果が紹介される。こうして効果的な施行が MPA 成功の鍵となることを明確に実証することが、この共同管理の取り組みに対する政府支援に拍車をかけている。その結果、いまでは多くの政府関係者が、持続可能な海洋管理に不可欠なツールとして MPA を支持している。最近では、農業省が施行能力を強化するために新しい船舶を購入した。また、コミュニティの保護官も関与する系統的な監視制度を導入するために、MCS が同省の職員に研修を実施している。

MCS は、地域内の社会経済状況を改善する上で共同方式の海洋管理と男女共同参画のスタンスの両方を取り入れることが重要であることを認識し、2013 年に、ギョクオヴァ湾のボズブルン・ダッチャ地域で働く 70 名を超す女性漁業者の支援を目的とするプロジェクトを立ち上げた。このプロジェクトは、大多数が貧しく困難な状況で働き、受けられる社会保障の種類も限られているこの地域の女性漁業者の間に絆を生み、魚の乱獲とそれがもたらす収入減など、共通の課題を議論できる場を提供している。さらに、このネットワークは、メンバーが持続可能で環境に優しい漁具を見つけて使用することにも寄与し、また、地元漁業の協同管理に対する女性の積極的な参画も支えている。女性漁業者は、持続可能な漁業、労働者の権利、女性のリーダーシップ、マイクロクレジットについて研修を受けてきた。この協同組合には注目に値す

る活動と成果が数多くあるものの、おそらく最も注目すべきは、概して男性優位の社会において女性グループが成功を収めたことである。

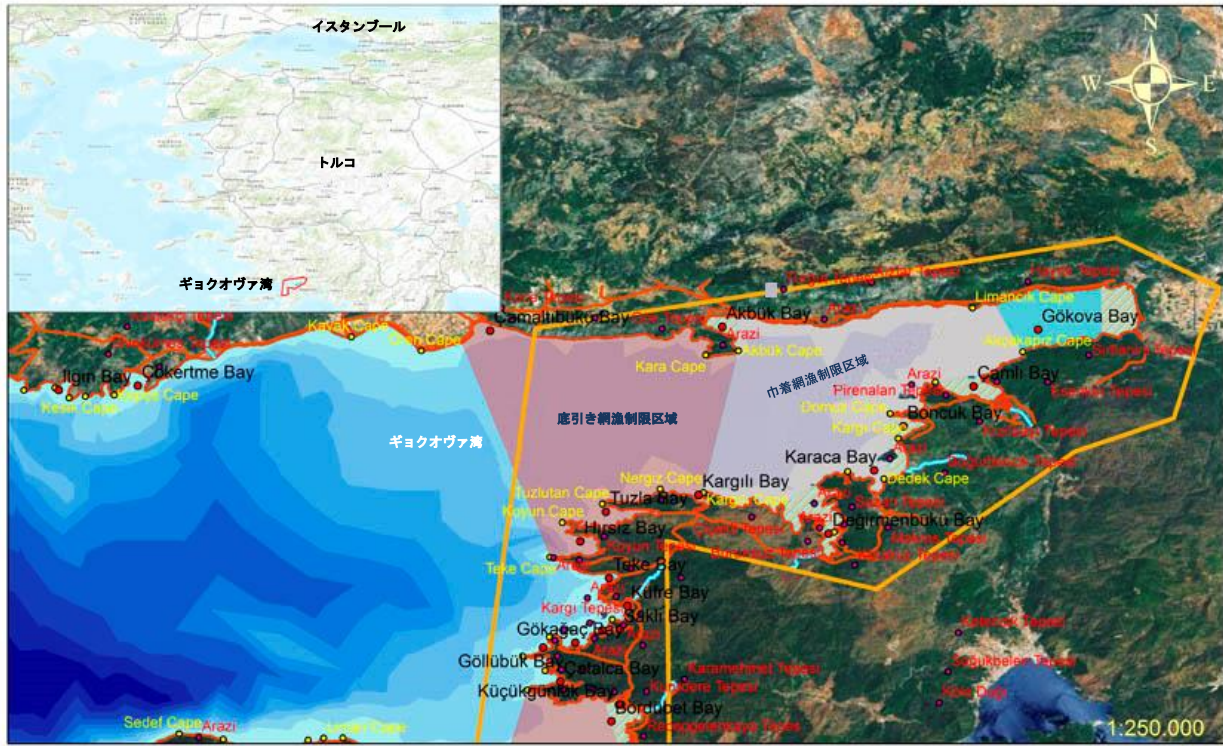
4) 特に、継続的に能力開発に取り組むことおよび／または同様のプロジェクトを他の地域で展開することに関連して経験した困難な課題

こうした多数の利害関係者を巻き込んだ活動を行ったことが一度もなかったため、当初は政府と地元コミュニティのメンバーの間で信頼を築くことが難しかった。しかし、ひとたび参画型の管理体制が機能し始めると、すべての関係者が共同作業を歓迎し、地元コミュニティを不法な漁業やその他の違反事例に効果的に介入する能力を備えた尊敬すべき現場のパートナーとして認めるようになった。しかし同時に、制服を着てコミュニケーションと監視に関する一定の規則に従うことは、生涯を通じて単独で活動してきた一部の漁業者にとっては困難だった。コミュニティの海洋警備の任務を開始した後、漁業者はすぐに、一般市民に対して権限を行使し沿岸警備隊の出先機関として認められるためには、厳格な行動規範に従わなければならないことを悟った。

5) このプロジェクトの次の段階

このプロジェクトの次の段階は、政府の利害関係者との間で共同管理協定を作成し、署名することである。すでに MCS は、同様のプロジェクトを他の地域で展開する観点から、水産養殖総局との協力を進めている。2016年8月には、こうした新しい地域が発表されるものと見込まれる。

ギョクオヴァ湾プロジェクト



凡例		名称	
	ギョクオヴァ特別環境保護区		底引き網漁制限区域
	漁業禁止区域		巾着網漁制限区域
			以前漁業協同組合が賃貸していた海洋区域

<http://www.akdenizkoruma.org.tr>